

## [講演要旨] 「関東大震災・地図と写真のデータベース」

作成にあたって 神奈川大学 北原糸子

神奈川大学 21 世紀プログラム COE に参加し、2008 年 3 月「関東大震災・地図と写真のデータベース」作成した。その成果および今後の課題について、紹介したい。「関東大震災・地図と写真のデータベース」<http://www.himoji.jp/database/db06> にアップしている。この作成には GIS アプリケーションマップインフォを使用し、背景図の地図画像はファイルサイズを 1/10 に圧縮し、マップインフォ上で位置情報を与え地図データとして作成、写真の位置を示した。

### A. 基図

背景図としては、つぎの諸図を利用した。

1. 「震災応急測図原図」(国土地理院蔵)の東京市の範囲
2. 「火災延焼動態図」中村清二「大地震による東京火災調査報告」『震災予防調査会報告』第百号戊
3. 「関東震災震度分布図」武村雅之(2003)作成

試行錯誤的にいくつかの地図を参照したが、震災当時の情報が正確に得られる地図としては 1 および 2 の地図となった。なお、3 の武村作成図の基図としたものは「明治四十年東京市十五区番地界入地図」(東京郵便局)であったが、鉄道、道路敷設など震災直前の姿を確認するには地物情報が不足していたので、震度分布の参考図とした。

### B. 写真

写真はホームページにアップして公開するという目的上、掲載許可が得られたものと著作権がすでに消滅している印刷写真、絵葉書に限定した。主なものは以下のとおりである。宮内庁書陵部所蔵航空写真、大坂毎日新聞社『関東震災画報』1, 2 輯、東京市役所『東京震災録』付録写真帖、総務省消防庁所蔵「関東大震災写真集」、東京都慰霊堂保管写真類(東京都建設局公園課所管)、関東大震災絵葉書(東京都公文書館蔵)であった。

### C. データベースとしての意義

#### 1. 写真データベースとしての活用の意義

関東大震災に関する写真は写真帖、あるいは絵葉書などとして、関係各所あるいは個人としても所蔵されているものが多数ある。これらを整理するひとつの方法として、地図情報を与える、類似の写真の整理が可能、航空写真と地上からの写真との視座の違いから獲得される情報などが期待できると考えた。

#### 2. 写真のレイヤー

火災(火災被害)、建物(建物被害)、航空写真、震災前と後、救援(工兵隊・救援)、救護(医療・配給)、巡視、震災情景(橋梁、惨状、生活回復、眺望、震害)、被害(駅舎、建物、倒壊、火災、官庁)、避難(混雑、避難、小屋、バラック、東京脱出)、組写真(日比谷公園、浅草十二階、二重橋、警視庁、被服廠、東京駅、帝国大学)  
( )内はそれぞれさらに細かく写真を分類した指標を示している。

#### 3. 成果と課題

上記の分類では、一見、対象が重なり分類が意味をなさないような項目となっているが、写真から読み取る主題によっては、同一の写真であっても異なるレイヤーに置くことで異なる情報が得られるのである。絵葉書類は当時の著名な建物の被害写真、被服廠跡の焼死体の光景など同じものが多数存在し、また、写真の対象となるものが特定のものに集中する傾向が極めて顕著であることもわかった。災害認識の普遍化と固定化が災害発生の初期から図られていくことが示されている。被害と救済に限定したデータベースにさらに 2008 年度は復興を重ね、関東大震災の災害の総体を把握することに努めたい。